

A decorative border with symmetrical floral and scrollwork patterns in a light gray color, framing the central text.

Ensemble Poisson

アンサンブル・プワソン

第9回コンサート

2018年10月8日

於 近江楽堂

Program
プログラム

— — (13-14c)
作曲者不詳

Missa Tornacensis
トゥルネー ミサ

指揮：望月裕央

休憩（１５分）

Johannes Ockeghem (c1410-1497)
ヨハンネス・オケゲム

Missa Mi-Mi
ミサ ミ・ミ

指揮：佐藤栄一

歌詞対訳

Missa

Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

Gloria

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax
hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te,
benedicimus te,
adoramus te,
glorificamus te.
Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus,
Rex caelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite,
Jesu Christe.
Domine Deus,
Agnus Dei,
Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris,
miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus,
Tu solus Dominus,
Tu solus altissimus,
Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu
in gloria Dei Patris.
Amen.

ミサ

キリエ（あわれみの賛歌）

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

グロリア（栄光の賛歌）

いと高きところでは神に栄光が
ありますように。
そして地上では、平和が
善意の人々にありますように。
私たちはあなたを賛美します
あなたを讃えます、
あなたを拝みます、
あなたを崇めます。
私たちはあなたに感謝いたします、
あなたの大きな栄光のゆえに。
神である主よ、
天の王よ、
全能の父である神よ。
独り子である主よ、
イエス・キリストよ。
神なる主よ、
神の小羊よ、
父の御子よ。
世の罪を取り除かれる方よ、
私たちに憐れんでください。
世の罪を取り除かれる方よ、
私たちの願いを受け入れてください。
父の右に座しておられる方よ、
私たちに憐れんでください。
なぜなら、あなたのみが聖、
あなたのみが主、
あなたのみがいと高き方であるからです
イエス・キリストよ。
あなたは聖霊とともに、
父なる神の栄光のうちにいられます。
アーメン。

Graduale

Tecum principium in die virtutis tuae:

in splendoribus sanctorum,
ex utero ante luciferum genui te.

Alleluia

Alleluia.

Dominus dixit ad me:

Filius meus es tu,
ego hodie genui te.

Alleluia.

昇階唱

(主の降誕の祝日 夜半のミサ)

あなたの力が現れる日、
主権もあなたと共にある、
聖なる輝きの中で、
夜明け前に あなたを生んだ。

アレルヤ唱

(主の降誕の祝日 夜半のミサ)

アレルヤ。
主は私に言った、
あなたはわたしの子、
今日 わたしはあなたを生んだ
アレルヤ。

Credo

Credo in unum Deum,

Patrem omnipotentem,
factorem caeli et terrae,
visibilium omnium et invisibilium.

Et in unum Dominum Jesum Christum,

Filium Dei unigenitum,
et ex Patre natum ante omnia saecula.

Deum de Deo,

lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.

Genitum, non factum,
consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.

Qui propter nos homines
et propter nostram salutem,
descendit de caelis.

Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria virgine:
et homo factus est.

Crucifixus etiam pro nobis

sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.

クレド (信仰宣言)

私は信じます、唯一の神を、
全能の父を、
天と地の創り主を、
すべての目に見えるものと見えないもの
の創り主を。
そして信じます、
唯一の主イエス・キリストを、
神の独り子を、
すべてに先だって父から
お生まれになった方を。
神からの神、
光からの光、
まことの神からのまことの神を。
創られることなく生まれ、
父と本質を共有し、
万物を創られた方を。
この方は、私たち人間のために、
私たちの救いのために、
天から下られました。
そして聖霊によって、
処女マリアから肉体を受け、
人と成られました。
私たちのためにポンツィオ・ピラトの
もとで
十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られました。

Et resurrexit tertia die,
secundum scripturas.
Et ascendit in caelum:
sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum,
Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit,
qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur:
qui locutus est per prophetas.

Et unam sanctam catholicam

et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unam baptismam
in remissionem peccatorum.

Et expecto resurrectionem mortuorum,
et vitam venturi saeculi.
Amen.

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus,
Dominus, Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna, in excelsis.
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna, in excelsis.

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona nobis pacem.

三日目によみがえられました、
聖書にある通りに。
そして天に上り、
父の右に座されました。
そして栄光に満ちてふたたび来られ、
生者と死者を裁かれ、
その統治は、終わることがないでしょう
そして信じます、聖霊を、
主にして、生命を与える方を。
聖霊は父と子から発し、
父と子と同じように拝せられ、
栄光を受けられます。
聖霊は預言者たちを通じて
語って来られた方です
そして信じます、一つの、聖なる、
普遍的で、
使徒から継承された教会を。
私は告白します、
罪の許しを得させる唯一の洗礼への
信仰を。
そして待ち望みます、死者の復活と。
来るべき世の命を。
アーメン。

サンクトゥス（感謝の賛歌）

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。
万軍の神なる主は。
主の栄光は天地に満つ。
天のいと高きところにホザンナ。
ほむべきかな、主の名によりて来たる者。
天のいと高きところにホザンナ。

アニュス・デイ（平和の賛歌）

神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらを憐れみたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらを憐れみたまえ。
神の子羊、世の罪を除きたもう主よ、
われらに平安を与えたまえ。

（上の訳文のうち、Kyrie, Sanctus, Agnus Dei は、ほぼ現在日本のカトリック教会で歌われているとおりの半文語のものであり、口語訳のGloria, Credo とは統一がとれていない。）

曲目について

ミサ曲について

ミサの祈りの一部が歌われることはキリスト教の創立期以来行われていたらしい。このようなミサを歌ミサという。歌ミサで歌われる歌は長い間そのほとんどが単旋律の歌であった。12世紀頃までのことである。もちろん変化がなかったわけではない。地域により、また時代により、いろいろな変化や変遷があり、またそれらを統一しようという動きもあった。また後の時代にグレゴリオ聖歌と総称されるようになったこの単旋律の歌はその後もし作り続けられた。16世紀ごろがそのピークだともいわれる。また、あまり古い時代の曲を特定することは困難になっている。現存するグレゴリオ聖歌で最も古いものでも9世紀末の作品だといわれている。

多声音楽は9世紀頃には既に存在し、教会音楽にも取り入れられ始めたようである。初期のものは単旋律の下方4度で、本旋律に並行した新しい旋律が付け加えられるものであった（平行オルガヌム）が、対旋律にたくさんの短い音が付け加えられたりするなど、次第に高度に複雑化していった。このような教会における多声音楽の発展の場は、現在のフランス（西フランク王国）であった。12世紀末～13世紀初頭のパリのノートルダム大聖堂を中心に活躍した人達は「ノートルダム楽派」と呼ばれた。3声や4声の技巧的な曲も作曲された。今日ミサ曲といわれるミサの通常文が、多声音楽として作曲されるようになったのは13世紀になってかららしい。（＊パリのノートルダム大聖堂は1163年に着工され1345年に完成した。）

14世紀の「アルス・ノヴァ（新技法）」の時代を代表するのが、北フランスの生まれでパリで活躍したギヨーム・ド・マショー（1300頃～1377）である。彼は、ミサ通常文を、すべて一連のものとして、つまりミサ曲として、通して作曲した初めての音楽家として知られている。もちろんそれ以前にも、ミサ曲の各部分はそれぞれ作曲されていて、実際に歌われる時にはそれらを組み合わせて用いられたのである。そのようにしてまとめられ、歌われたと考えられる曲は、いくつか知られていて、その所在地の名をとって、「バルセロナ・ミサ」、「トゥールーズ・ミサ」などと呼ばれている。そのようなものの中で最も有名なものが、ベルギー西部のトゥルネーの大聖堂に残されていたもので、本日演奏される「トゥルネー・ミサ」である。

トゥルネー・ミサ

この3声のミサ曲は、50年以上にわたっていろいろな作曲家によって作曲された各曲が、後に一連のものとして編纂され演奏されたものである。そのうちキリエ、サンクトゥス、アニュス・デイは、13世紀中～後期の特徴をもっているもっとも古いものであり、グロリアはもっとも新しく、14世紀のアルス・ノヴァの技法で作曲されていて、リズムがより自由になっている。グロリア全体の3分の1の長さを占めるアーメンでは、いろいろな技法が用いられているが、ホケトゥス（hoketus=しゃっくり）という、旋律が細かく休止符で分断され、しかもその分断の位置が声部ごと

にずれていて、何とも言えない効果を出す手法が用いられている。グロリアとクレドは、言葉が多い曲なので、最後のアーメンを除いて、いくつかの声部が同一のリズムで同一の歌詞を歌う様式（コンドゥクトゥス様式）がとられ、後の時代のホモフォニーを思わせるものとなっている。

トゥルネーでは毎年、公証人ギルドの集会が開かれていて、その時のミサのために一つのまとまったものとして編集されたものだといわれている。

なお本日の演奏では、グロリアの後、昇階唱とアレルヤ唱がグレゴリオ聖歌で歌われる。これらはミサ通常文と違い、毎日違うものが歌われるミサ固有文である。今日は降誕の祝日の夜半のミサのためのものが歌われる。



By self-made composite, from photos taken by Jean-Pol Grandmont, CC BY 2.5,

ヨハンネス・オケゲム ルネサンス音楽の時代

1430年頃が、音楽史上のアルス・ノヴァの時代とルネサンス時代の交替の時期だといわれるが、何か急激な変化が起きたわけではない。ルネサンスの音楽を特徴づけるのはミサ曲である。この時代から、一つの定旋律をすべての楽章に用いる「循環ミサ」が生まれ、その定旋律も、グレゴリオ聖歌のものではなく、世俗曲の旋律が普通に用いられるようになった。またミサ曲はそれぞれ作曲家の名前とともに記憶されるようになったのも重要な変化の一つである。

この時代の初期を特徴づける作曲家はまずギヨーム・デュファイ（1400頃～1474）であり、続いてヨハンネス・オケゲム（1410頃～1497）である。オケゲムは、ベルギー西部のサン・ギラン（フランスとの国境に近く、前述のトゥルネーの東南約30km）に生まれ、アントウェルペンの聖歌隊員として活躍した。その後は、フランスに移り、宮廷音楽家としてシャルル7世など歴代のフランス王に仕え、トゥールで生涯を終えたという。

自身が優れたバス歌手でもあったオケゲムは、バス声部の充実に力を入れたようである。各声部が独立性の高い動きをする中で、全体として統一性が保たれるとい

う、ルネサンス・ポリフォニーの基礎を固めたのはオケゲムであったといわれている。非常に精密な計算に基づいて、知的で技巧的に作曲されているにもかかわらず、情緒豊かな音楽が生まれてくるというのがオケゲムの特徴である。ミサ曲が彼の主要な作品であり、最古のポリフォニックなレクイエムとして有名である死者のためのミサ曲を含め、14の完成したミサ曲が知られている。



By Unknown, Public Domain,

ミサ ミ・ミはオケゲム自身の作曲したシャンソン「プレスク・トランジ（ほとんど死んでいるほど）」の旋律をすべての声部に用いたミサ曲であり、ミサ・プレスク・トランジとも呼ばれる。16世紀に盛んであった「パロディ・ミサ」を先取りしたものである。

何故 ミ＝ミ という名前がついているかというと、このミサ曲のすべての曲の冒頭で、バス声部は5度の跳躍下降の音程で始まることからきている。〔ミ ⇒ ラ〕の跳躍下降である。ミ を中世に使われていた自然ヘキサコードの ミだとすると、ラ はやわらかいヘキサコードの ミ になるので、ミからミへの跳躍だというわけである。なんのことかよくわからないかもしれない。強引に現代的に説明すると、ハ長調(イ短調)の〔ミ ⇒ ラ〕の跳躍を{〔ハ長調(イ短調)のミ ⇒ ヘ長調(二短調)のミ〕の跳躍と読むわけである。ルネサンス期に一般的になったソルミゼーションの方法では普通の読み方であったらしい。なお、本日の演奏は、ハ長調(イ短調)ではなく、全体を短3度かさ上げして歌う。

指揮者紹介

佐藤栄一 Eiichi Sato

1954年東京生まれ。
東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。
和声学、作曲を宍戸睦郎氏に師事。対位法、フーガを原博氏に師事。
洗足学園音楽大学講師（1986年～2003年）。
キリスト教音楽学校にて河野和雄氏にオルガンを師事。
聖グレゴリオの家宗教音楽研究所でオルガン、グレゴリオ聖歌を学ぶ。
国際基督教大学教会聖歌隊指揮者（2005年～2012年）。
現在、日本基督教団六角橋教会伝道師。



望月裕央 Hiroo Mochizuki

1965年横浜生まれ。
キリスト教音楽、日本の歌のソロ、アンサンブル、および、合唱声楽指導の活動を展開している。
グレゴリオ聖歌を橋本周子、声楽を宮原昭吾、合唱指揮を川名祐一の各氏に師事。
洗足音楽大学声楽科卒業、同大学付属合唱音楽研究所修了。
「唱歌童謡を歌い継ぐ会 ももたらう」主宰。
ハーモニング・ミュージックスクール講師。
聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所 声楽ゼミナール講師。



アンサンブル・プワソン

Ensemble Poisson

Poissonはフランス語で「魚」の意味。活動の拠点である豊島区・池袋の「池」から名付けられました。

前身である「混声合唱団Chor Poissons」の1981年の発足以来16年間活動が続けましたが、「どんな音楽を、どのように楽しみたいのか」という問いかけから新たな出発を決意、1997年「Ensemble Poisson」として生まれ変わりました。

大きな声、強い声よりも「美しい声、調和する声」でうたうことを目指し、主に中世、ルネサンス期の無伴奏宗教曲を中心に練習しています。

作曲家・佐藤栄一を音楽監督として、またヴォイストレーニングと歌唱法はソリスト・望月裕央の指導のもと、豊島区周辺で月2～3回ほど練習しています。

本日の出演者

Soprano/Alto	倉光弘子	近藤真智子	福島志保
	山崎和子	吉澤麻子	
Tenor/Bass	椎野隆志	須藤茂	中村保夫
	藤永道夫	正木一弘	森田牧朗

メンバー募集中

ルネサンス時代の流れを汲む無伴奏合唱に興味をお持ちの方へ！

小人数のアンサンブルを志向していますが、各パート若干名を受け付けます。

詳しくは、アンサンブルプワソンHPをご覧ください。

<http://www.asahi-net.or.jp/~vd6k-msk/poissons.htm>

問合せ先：正木 chorus@music.email.ne.jp

プログラム本文作成：中村保夫、近藤真智子

チラシ・チケット作成：近藤真智子

印刷：正木一弘